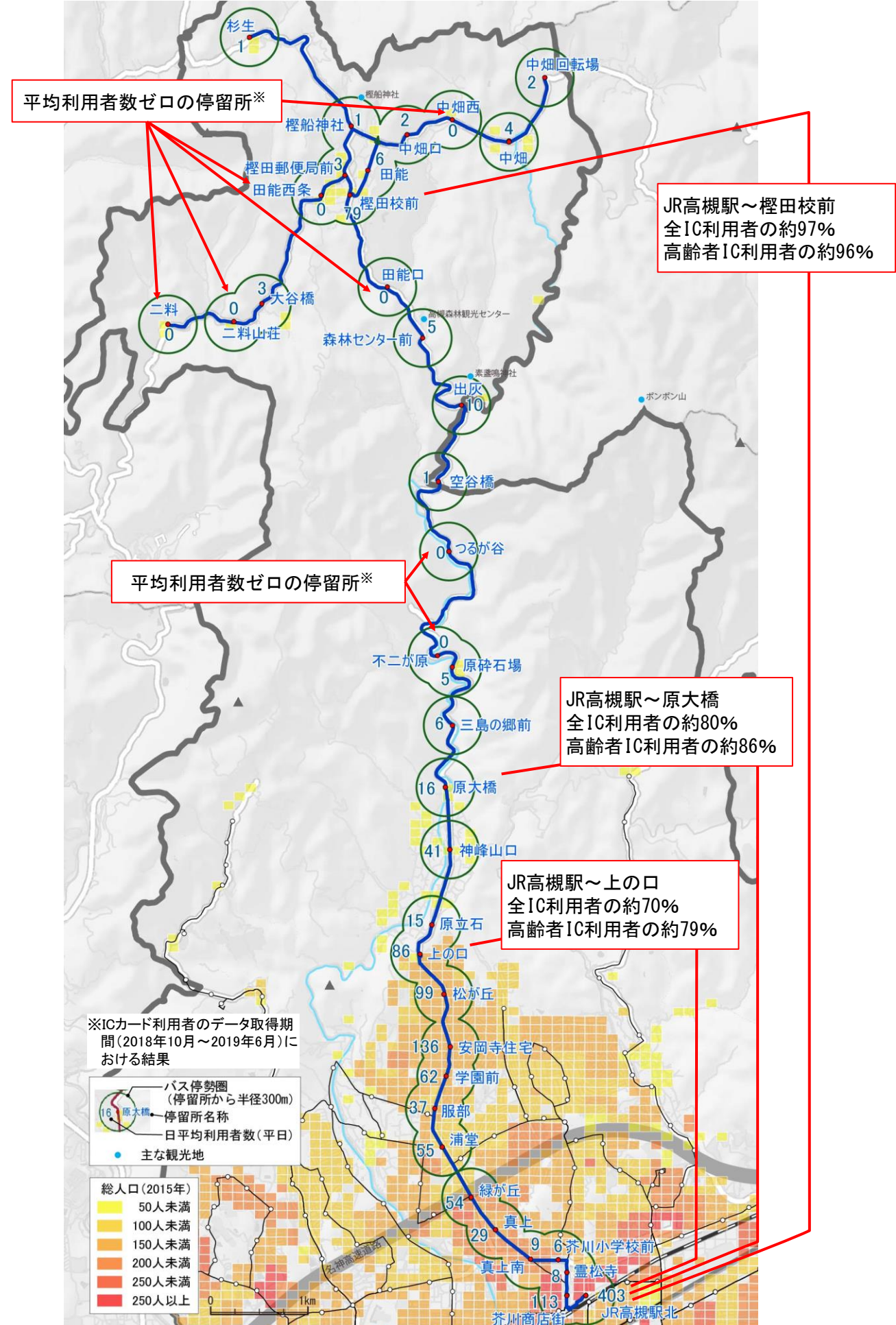


番号	路線名	路線概要	収支関連								1日当たり平均利用者数 (2018年10月～2019年6月, 平日)		
			運送収益	実車走行キロ	キロ当たり費用	運行経費	営業損益額	営業係数	乗車密度	補助金額 (※2)	全IC	高齢者IC	高齢者IC 比率
			(千円/年)	(km)	(円/km)	(千円/年)	(千円/年)						
			A	B	C	D=B*C	E=A-D	F=D/A*100	(人)	(千円/年)	(人/日)	(人/日)	(人/日)
1	田能・杉生・中畑・二料線	J R高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線を通して、榎田地区の4地域を結ぶ路線	32,625	136,410	795.63	108,532	-75,906	332.66	11.7	53,691	648	209	32.2%
2	萩谷線	J R摂津富田駅北側ターミナル(一部、J R高槻駅北発着の便あり)から府道萩谷西五百住線を通して、萩谷地区を結ぶ路線	56,176	161,868	795.63	128,787	-72,611	229.26	8.5	34,091	1,225	217	17.7%
3	成合・川久保線	J R高槻駅南側ターミナルから府道伏見柳谷高槻線線を通して、成合・川久保地区を結ぶ路線	154,411	235,815	795.63	187,622	-33,211	121.51	8.6	11,619	2,566	788	30.7%
4	日吉台線	J R高槻駅北側ターミナルから市道芥川原線を通して、日吉台地区を結ぶ路線	243,802	208,144	795.63	165,606	78,196	67.93	21.1	0	4,521	1,328	29.4%
5	芝谷線	J R高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線、市道南平台日吉台線を通して、芝谷・寺谷地区を結ぶ路線	171,663	177,185	795.63	140,974	30,689	82.12	21.4	0	2,902	927	31.9%
6	美しが丘線	J R高槻駅南・阪急高槻駅から市道別所日吉台線を通して、日吉台地区を結ぶ路線	98,825	153,037	795.63	121,761	-22,936	123.21	11.5	0	1,807	614	34.0%
7	原・上の口線	J R高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線を通して、原地区を結ぶ路線	470,071	548,747	795.63	436,600	33,471	92.88	18.9	0	8,417	2,737	32.5%
8	塚脇・下の口線	J R高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線、市道下の口宮之川原線を通して、塚脇、大蔵司地区を結ぶ路線	82,452	109,299	795.63	86,962	-4,510	105.47	15.6	0	1,437	523	36.4%
9	南平台東線	J R高槻駅北側ターミナルから国道171号、市道辻子下の口線を通して、関西大学を結ぶ路線	236,835	314,476	795.63	250,206	-13,371	105.65	26.3	0	4,148	799	19.3%
10	国道線	J R高槻駅北側ターミナルから国道171号を通して、J R摂津富田駅を結ぶ路	9,251	16,260	795.63	12,937	-3,686	139.84	7.3	0	152	62	41.1%
11	奈佐原線	J R摂津富田駅北側ターミナル(一部J R高槻駅北発着の便あり)から、府道萩谷西五百住線を通して、南平台・奈佐原地区を結ぶ路線	119,818	156,389	795.63	124,428	-4,610	103.85	13.4	0	1,741	600	34.5%
12	阿武山・塚原線	J R摂津富田駅北側ターミナル(一部J R高槻駅北発着の便あり)から、U R阿武山団地、日赤病院、塚原方面を結ぶ路線	524,543	530,473	795.63	422,060	102,483	80.46	26.0	0	9,425	1,890	20.1%
13	昭和台線	平成31年3月末で路線休止	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

番号	路線名	路線概要	収支関連								1日当たり平均利用者数 (2018年10月～2019年6月, 平日)		
			運送収益	実車走行キロ	キロ当たり費用	運行経費	営業損益額	営業係数	乗車密度	補助金額 (※2)	全IC	高齢者IC	高齢者IC 比率
			(千円/年)	(km)	(円/km)	(千円/年)	(千円/年)						
			A	B	C	D=B*C	E=A-D						
14	富田南線	J R 高槻駅南側ターミナルから阪急高槻市駅を経て、府道高槻茨木線を通して、阪急富田駅を結ぶ路線	34,494	69,278	795.63	55,120	-20,626	159.80	6.0	0	742	418	56.3%
15	芝生住宅線	阪急富田駅から府道高槻茨木線を通して、芝生住宅を結ぶ路線	18,520	51,791	795.63	41,207	-22,686	222.50	4.3	0	379	171	45.2%
16	栄町線	駅から府道高槻茨木線を通して、栄町方面を結ぶ路線	41,183	79,416	795.63	63,186	-22,003	153.43	11.1	0	761	481	63.2%
17	富田団地線	J R 高槻駅南側ターミナルから阪急高槻市駅を経て、府道大阪高槻線を通して、富田団地を結ぶ路線	175,079	258,710	795.63	205,837	-30,758	117.57	17.8	0	3,151	1,220	38.7%
18	玉川橋線	J R 高槻駅南側ターミナルから阪急高槻市駅を経て、国道170号、府道枚方茨木線を通して、玉川橋団地を結ぶ路線	14,569	32,441	795.63	25,811	-11,241	177.16	10.3	0	299	165	55.0%
19	柱本・三島江線	J R 高槻駅南側ターミナルから府道大阪高槻線線を通して、柱本・三島江地区を結ぶ路線	135,513	265,463	795.63	211,210	-75,697	155.86	7.4	50,469	2,236	810	36.2%
20	下田部線	J R 高槻駅南側ターミナルから国道170号を通して、下田部団地を結ぶ路線	120,902	185,659	795.63	147,715	-26,813	122.18	16.1	0	2,603	1,154	44.3%
21	大塚線	J R 高槻駅南側ターミナルから国道170号を通して、深沢住宅方面を結ぶ路線	179,278	235,159	795.63	187,099	-7,821	104.36	17.9	0	3,518	1,449	41.2%
22	前島・六中線	J R 高槻駅南側ターミナルから国道171号を通して、野田方面を結ぶ路線	84,638	140,551	795.63	111,826	-27,188	132.12	8.9	0	1,588	675	42.5%
23	道鶴線	J R 高槻駅南側ターミナルから国道171号を通して、道鶴町・上牧方面を結ぶ路線	117,793	208,764	795.63	166,099	-48,306	141.01	11.0	31,272	2,874	1,114	38.7%
24	梶原線	J R 高槻駅南・阪急高槻駅から西国街道を通して、梶原地区を結ぶ路線	24,298	78,025	795.63	62,079	-37,781	255.49	5.3	26,483	430	207	48.0%
25	富田芝生線 (※1)	阪急富田駅から市道富田芝生線を通して、栄町・車庫前・富田団地を循環する路線	-	-	-	-	-	-	-	0	296	147	49.8%
全路線合計			3,146,738	4,353,358	-	3,463,662	-316,924	110.07	-	207,625	57,868	18,703	32.3%

※1 富田芝生線は平成31年4月開設路線のため、収支に関するデータ（平成30年度）なし。1日当たり平均利用者数は、2019年4月～2019年6月の平均。

※2 補助金対象路線は、山間部3路線及び営業係数130以上かつ乗車密度18人以下かつ運行損失3,000万円以上の路線



(1) 路線概要

- ・ JR高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線を通して、榎田地区の4地域を結ぶ路線
- ・ 平日、駅から榎田方面に行く便が9便、駅方面に行く便が10便
- ・ JR高槻駅北から原大橋までは均一制運賃、原大橋を越えると対キロ区間制運賃区域
- ・ 生活交通路線維持事業の対象(山間3路線)

【平成30年度の収支】
・ 約7,591万円の赤字(24位/24路線)

【その他】
・ 原上の口線など、他路線との重複区間が多い

(2) 人口分布・まちの沿革・施設立地等

- ・ 上の口から北側は市街化調整区域のため、居住人口が少ない
- ・ 原大橋から北側は更に居住人口が少なくなる
- ・ 上の口までの沿線周辺には商業施設や総合病院が立地している
- ・ 市の行政機関である榎田支所は榎田校前が最寄バス停となる
- ・ 榎田校前が最寄バス停となる榎田小学校は、他の校区から通学が可能な特認校に指定されている

(3) 沿線人口(各バス停から半径300m以内の人口, 単位: 人)

	0-9歳	10-19歳	20-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	総数
2015年 *1	2,655	2,706	16,840	2,127	2,147	1,797	2,344	30,617
2030年 *2	2,285	2,713	16,815	1,691	1,360	1,568	4,185	30,617
対2015年比	86.1%	100.2%	99.8%	79.5%	63.4%	87.2%	178.5%	100.0%

*1 2015年国勢調査(100mメッシュ)
*2 国立社会保障・人口問題研究所による推計(100mメッシュ)

(4) 観光的特色

- ・ 以前は「しょうぶ園」「二料山荘」「高槻フラワーパーク」などが沿線に立地していたが、現在は廃業・休業等の状況にある
- ・ 沿線には寺社仏閣が点在している

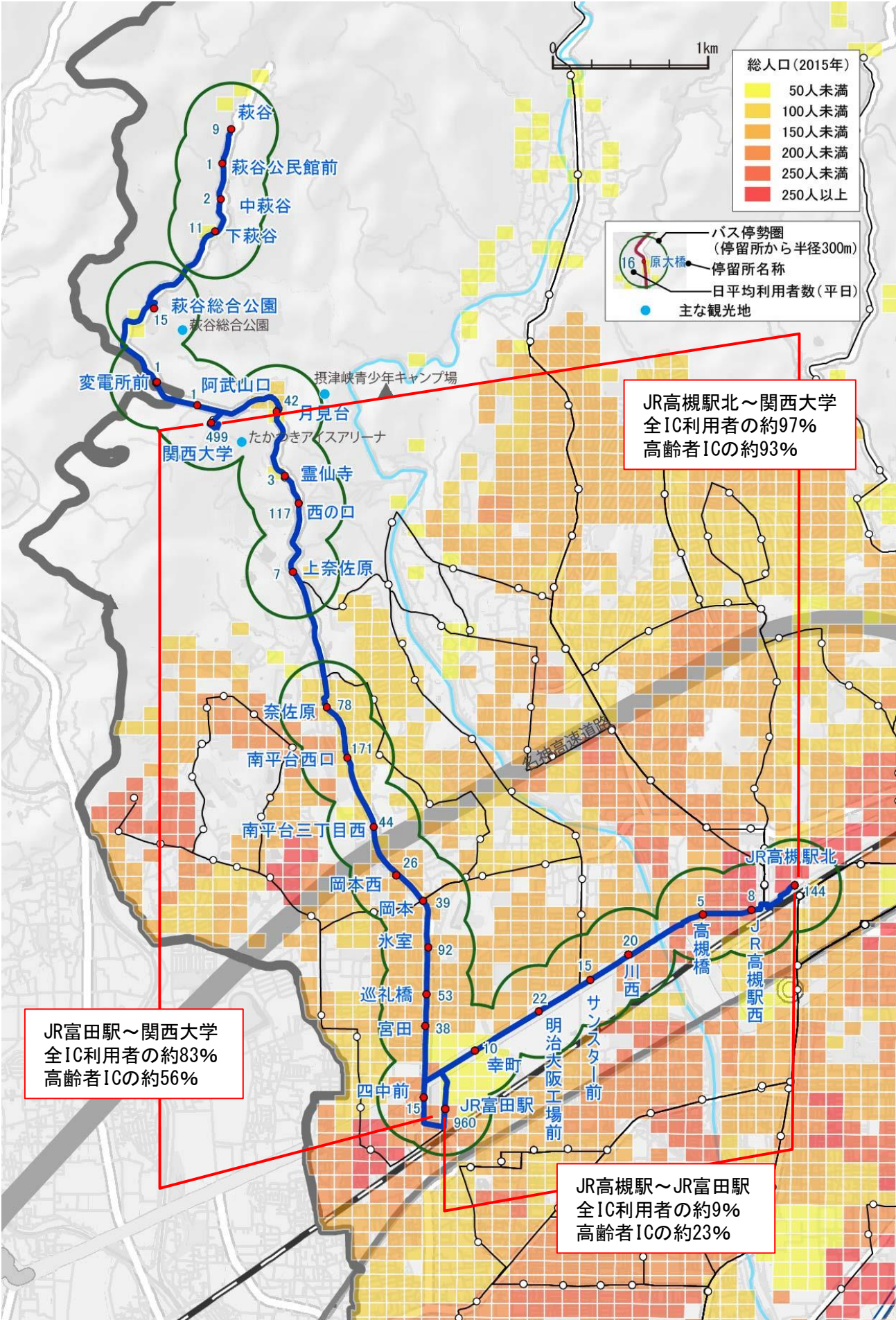
【主な観光資源】
・ 高槻森林観光センター
・ 素盞鳴(すさのお)神社
・ ポンポン山
・ 榎船神社
なお、原大橋以南は「原・上の口線」の項を参照

(5) ODデータに基づく利用状況

- ・ 路線全体のICカード利用者数は394人/日(20位/24路線)で、100人/日を超える乗降客があるのはJR高槻駅北、芥川商店街、安岡寺住宅のみ。50人未満のバス停が多くを占め、同路線で上位50以内のODはない
- ・ 平日、全ICカード利用者数の約70%が上の口まで、約80%が原大橋まで、約97%が榎田校前までの利用となっている
- ・ 平日、高齢者ICカード利用者数の約79%が上の口まで、約86%が原大橋まで、約96%が榎田校前までの利用となっている
- ・ 途中バス停では、1ヶ月の平均利用者数がゼロの停留所※がある

※ICカード利用者のデータ取得期間(2018年10月～2019年6月)における結果

今後の見直しの方向性(案)



(1) 路線概要

- ・JR摂津富田駅北側ターミナル(一部、JR高槻駅北発着の便あり)から府道萩谷西五百住線を通して、萩谷地区を結ぶ路線
- ・平日、駅から萩谷方面に行く便が14便(うち7便が高槻発)、駅方面に行く便が14便(うち4便が高槻行)
- ・JR高槻駅北から奈佐原までは均一制運賃、奈佐原を越えると対キロ区間制運賃区域
- ・生活交通路線維持事業の対象(山間3路線)

【平成30年度の収支】

- ・約7,261万円の赤字(21位/24路線)

【その他】

- ・奈佐原線など、他路線との重複区間が多い
- ・関西大学の北側の萩谷総合公園では、イベント開催時等に臨時増発を行うほどの利用がある

(2) 人口分布・まちの沿革・施設立地等

- ・奈佐原地区から北側は市街化調整区域のため、居住人口が少ない
- ・関西大学の高槻キャンパス(総合情報学部、たかつきアイスアリーナ)が立地している

(3) 沿線人口(各バス停から半径300m以内の人口、単位:人)

	0-9歳	10-19歳	20-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	総数
2015年 *1	2,875	2,734	18,631	2,123	1,791	1,377	1,744	31,277
2030年 *2	2,601	2,878	19,348	1,743	1,463	1,514	3,274	32,820
対2015年比	90.4%	105.3%	103.8%	82.1%	81.7%	109.9%	187.7%	104.9%

*1 2015年国勢調査(100mメッシュ)

*2 国立社会保障・人口問題研究所による推計(100mメッシュ)

(4) 観光的特色

- ・萩谷総合公園内の「休養・遊戯施設ゾーン」、「自然系ゾーン」には家族連れなどの市民が訪れている

【主な観光資源】

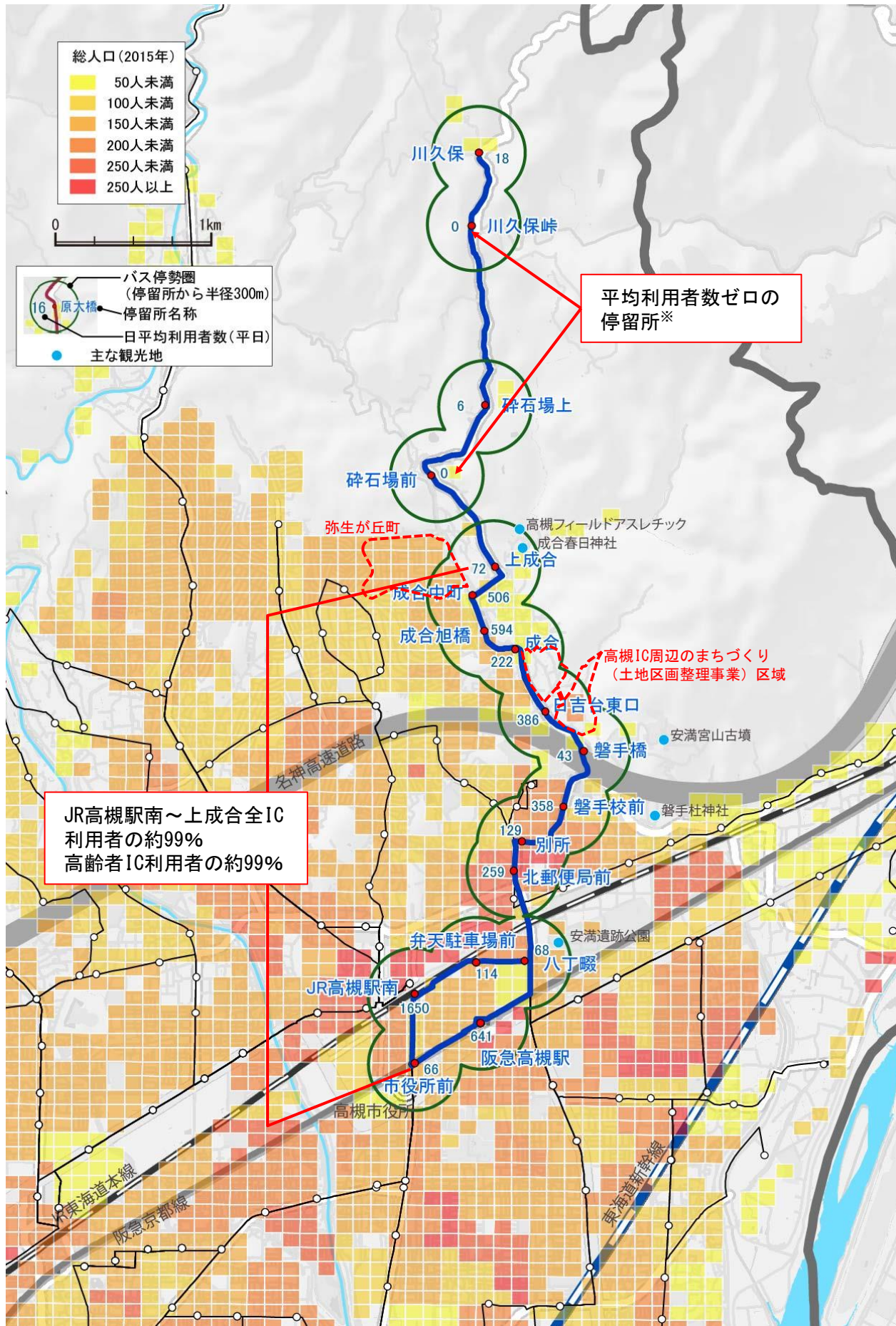
- ・萩谷総合公園
- ・たかつきアイスアリーナ
- ・摂津峡青少年キャンプ場
- ・東海自然歩道

(5) ODデータに基づく利用状況

- ・路線全体のICカード利用者数は1,225人/日(16位/24路線)だが、平日・全ICカード利用者数の約97%が関西大学までの利用となっており、学生による利用が多くを占めている。
- ・そのうち、JR富田駅⇄関西大学間の利用者が約83%を占めており、JR高槻駅～JR富田駅の利用者は約9%となっている
- ・平日・高齢者ICカード利用者数の約93%が関西大学までの利用となっている
- ・そのうち、JR富田駅⇄関西大学間の利用者が約56%を占めており、JR高槻駅～JR富田駅の利用者は約23%となっている

今後の見直しの方向性(案)





※ICカード利用者のデータ取得期間(2018年10月～2019年6月)における結果

(1) 路線概要

- ・JR高槻駅南側ターミナルから府道伏見柳谷高槻線を通して、成合・川久保地区を結ぶ路線
- ・平日、川久保発着の便が往復各8便(計16便)
- ・JR高槻駅北から上成合まで均一制運賃、上成合を越えると対キロ区間制運賃区域
- ・生活交通路線維持事業の対象(山間3路線)

【平成30年度の収支】
・約3,321万円の赤字(18位/24路線)

(2)人口分布・まちの沿革・施設立地等

- ・名神高速道路から北側は市街化調整区域のため、居住人口が少ない
- ・新名神高速道路高槻IC周辺のまちづくり(土地区画整理事業)が進められている
- ・市立葬祭センター及び公園墓地が立地している

(3)沿線人口(各バス停から半径300m以内の人口, 単位: 人)

	0-9歳	10-19歳	20-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	総数
2015年 *1	2,051	1,985	14,731	1,654	1,371	1,030	1,535	24,356
2030年 *2	1,866	2,030	15,542	1,414	1,099	1,202	3,354	26,508
対2015年比	91.0%	102.3%	105.5%	85.5%	80.2%	116.7%	218.5%	108.8%

*2 国立社会保障・人口問題研究所による推計(100mメッシュ)

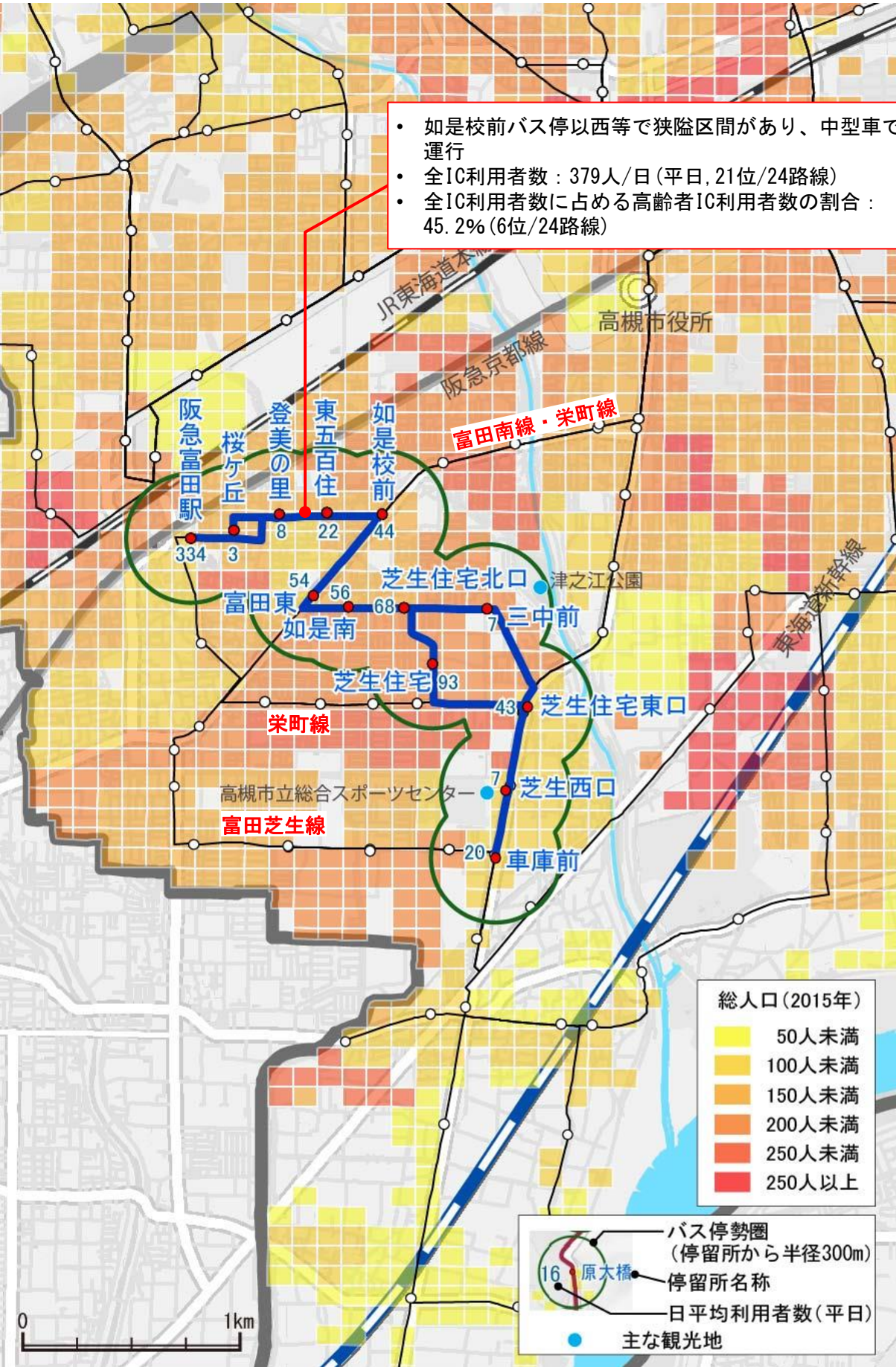
(4) 観光的な特色

- ・沿線には寺社仏閣が点在している

(5) ODデータに基づく利用状況

- ・路線全体のICカード利用者数は2,566人/日(10位/24路線)と比較的多い。JR高槻駅南、阪急高槻駅、成合旭橋、成合中町の乗降客数が500人/日を超えており、特に上成合以南のバス停の多くにおいて100人/日以上の上乗降がある。
- ・平日・全ICカード利用者数の約99%が上成合までの利用となっている
- ・平日・高齢者ICカード利用者数の約99%が上成合までの利用となっている
- ・上成合以北のバス停では、1ヶ月の平均利用者数がゼロの停留所※がある

今後の見直しの方向性(案)



(1)路線概要

- ・ 阪急富田駅から府道高槻茨木線を通して、芝生住宅を結ぶ路線
- 【平成30年度の収支】
- ・ 約2,269万円の赤字 (13位/24路線)
- 【その他】
- ・ 栄町線、富田南線など、他路線との重複区間が多い
 - ・ 如是校前バス停以西等で狭隘区間があり、中型車で運行となっている

(2)人口分布・まちの沿革・施設立地等

- ・ 芝生住宅は昭和の末期に建て替えが行われている
- ・ 路線全般にわたって地勢が平坦で、自転車利用者が多い
- ・ 三中前バス停付近では、芥川堤防に近いエリアが再開発され、戸建ての建売住宅が立地している

(3)沿線人口(各バス停から半径300m以内の人口, 単位:人)

	0-9歳	10-19歳	20-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	総数
2015年 *1	1,997	2,494	13,122	1,866	1,680	1,322	1,558	24,041
2030年 *2	1,507	1,878	11,476	1,238	1,001	1,090	2,728	20,917
対2015年比	75.5%	75.3%	87.5%	66.3%	59.6%	82.4%	175.0%	87.0%

*1 2015年国勢調査(100mメッシュ)

*2 国立社会保障・人口問題研究所による推計(100mメッシュ)

(4)観光的特色

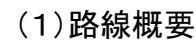
- 【主な観光資源】
- ・ 津之江公園
 - ・ 高槻市立総合スポーツセンター

(5)ODデータに基づく利用状況

- ・ 路線全体のICカード利用者数は379人/日(21位/24路線)で、100人/日を超える乗降客があるのは阪急富田駅のみ。50人未満のバス停が多くを占め、同路線で上位50以内のODはない
- ・ 全ICカード利用者数に占める高齢者ICカード利用者数の割合が高い(45.2%, 6位/24路線)

今後の見直しの方向性(案)





- 【平成30年度の収支】
・約7,570万円の赤字(22位/24路線)

- 【その他】
- ・富田団地線など、他路線との重複区間が多い
 - ・生活交通路線維持事業の対象路線
 - ・路線の距離が長く所要時間も要し、遅延も発生しやすい

- ・府道大阪高槻線の沿線は、産業道路的な性格があるため住工混在の状況である
- ・大規模な工場の撤退した跡地は大型物流施設となるケースがあり、ベッドタウンと逆向きの流動（朝ラッシュ時の駅→団地向き）も見られる
- ・車庫前以南は柱本団地を除いて、事業所や農地が立地している

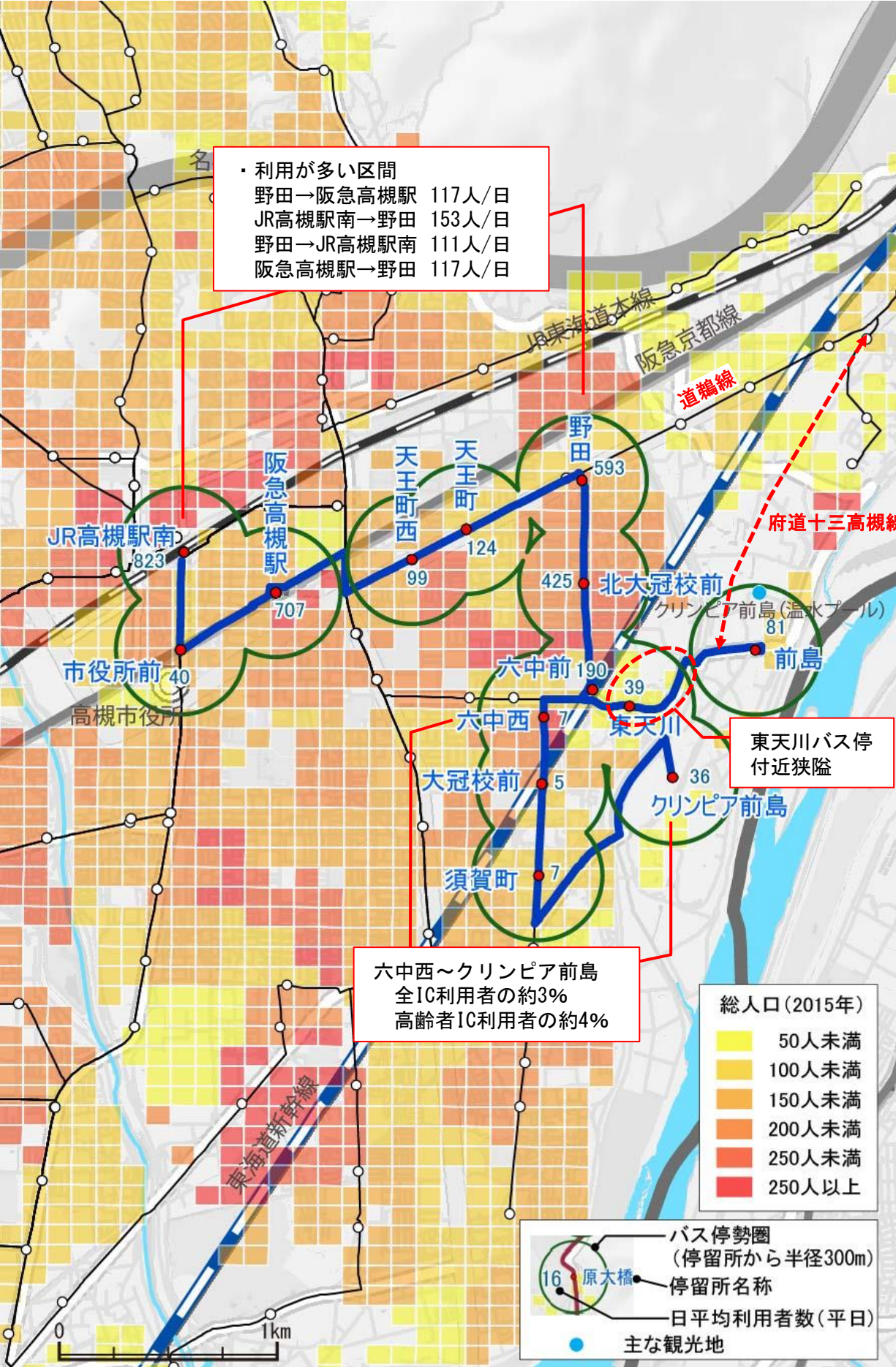
	0-9歳	10-19歳	20-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	総数
2015年 *1	3,039	2,848	20,220	2,704	2,410	1,776	2,257	35,254
2030年 *2	2,633	3,005	20,582	1,783	1,434	1,615	4,811	35,863
対2015年比	86.6%	105.5%	101.8%	65.9%	59.5%	91.0%	213.1%	101.7%

*2 国立社会保障・人口問題研究所による推計(100mメッシュ)

【主な観光資源】

- ・三島江浜跡（妙見宮常夜灯）
- ・三島鴨神社
- ・レンゲ・コスモス畑
- ・くらわんか舟発祥地之碑
- ・興楽寺
- ・淀川河川公園三島江地区

- ・路線全体のICカード利用者数は2,236人/日(11位/24路線)と比較的多い。JR高槻駅南、阪急高槻駅、柱本団地の乗降客数が500人/日を超えており、多くのバス停で100人/日以上乗降がある。
- ・そのなかで、三島江～唐崎方面へのルートにおける各バス停の利用者は50人/日を下回っており、路線の中では比較的少ない利用区間となっている。
- ・JR高槻駅南～柱本団地間の高齢者IC利用者が0Dが上位になっている。(2019年6月の高齢者ICカード利用者0Dが全0D中32位)



(1) 路線概要

- ・ JR高槻駅南側ターミナルから国道171号を通過して、野田方面を結ぶ路線
- 【平成30年度の収支】
 - ・ 約2,719万円の赤字 (16位/24路線)
- 【その他】
 - ・ 大塚線や道鶴線と重複している区間がある
 - ・ 東天川バス停周辺の道路状況により、小型車（マイクロバス）限定路線となっている

(2) 人口分布・まちの沿革・施設立地等

- ・ 六中前までは住宅や商業施設などの立地が多い
- ・ 六中前から前島間は農地が多い
- ・ 野田バス停近傍に総合病院が立地している
- ・ 府道十三高槻線や高槻東道路の整備に伴い、交通需要に変動が見られ、また、周辺のまちづくりが検討されている

(3) 沿線人口(各バス停から半径300m以内の人口)

	0-9歳	10-19歳	20-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	総数
2015年 *1	2,377	2,377	16,691	2,005	1,758	1,439	1,959	28,607
2030年 *2	2,070	2,297	17,602	1,572	1,283	1,303	3,742	29,869
対2015年比	87.1%	96.6%	105.5%	78.4%	73.0%	90.6%	191.0%	104.4%

*1 2015年国勢調査(100mメッシュ)
*2 国立社会保障・人口問題研究所による推計(100mメッシュ)

(4) 観光的特色

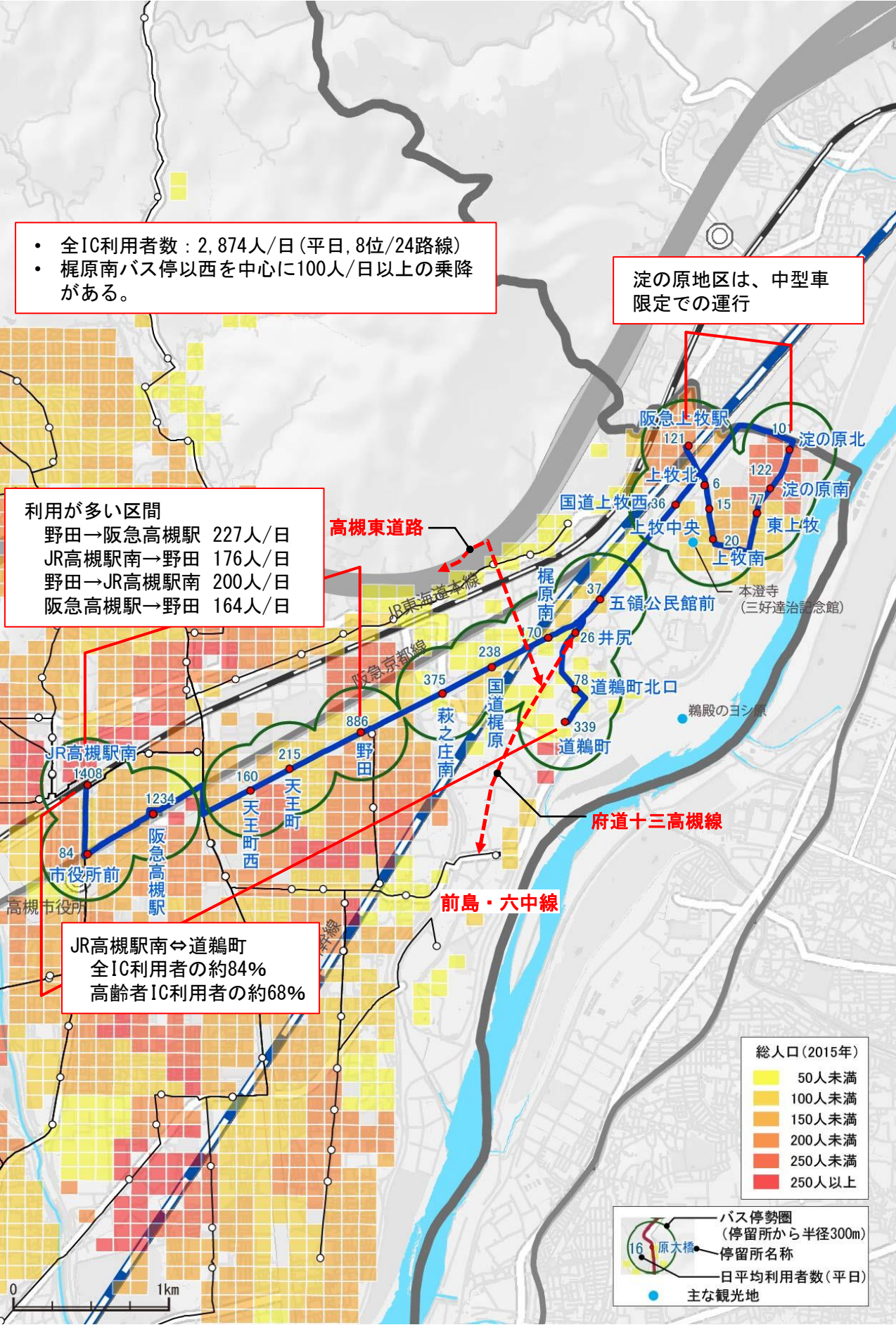
- 【主な観光資源】
 - ・ クリンピア前島 (温水プール)

(5) ODデータに基づく利用状況

- ・ 野田⇄駅間のODが上位となっている(他路線ODを含む)
 - 野田→阪急高槻駅 117人/日
 - JR高槻駅南→野田 153人/日
 - 野田→JR高槻駅南 111人/日
 - 阪急高槻駅→野田 117人/日
- ・ 六中西～クリンピア前島間のODは、全ICカード利用者の約3%と非常に少ない。

今後の見直しの方向性(案)





(1) 路線概要

- JR高槻駅南側ターミナルから国道171号を通過、道鶴町・上牧方面を結ぶ路線
- 【平成30年度の収支】
- 約4,831万円の赤字(20位/24路線)
- 【その他】
- 大塚線や前島・六中線と重複している区間がある
 - 生活交通路線維持事業の対象路線
 - 淀の原地区は路線環境の関係で、中型車限定での運行となっている

(2) 人口分布・まちの沿革・施設立地等

- 檜尾川より西側の国道区間は、総合病院やマンション・商業施設等が立地している
- 檜尾川より東側の区間は、大型の商業施設や工場等も立地するものの、住宅は少ない
- 府道十三高槻線や高槻東道路の整備に伴い、交通需要に変動が見られる

(3) 沿線人口(各バス停から半径300m以内の人口)

	0-9歳	10-19歳	20-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	総数
2015年 *1	2,284	2,010	16,157	1,840	1,715	1,328	1,812	27,147
2030年 *2	2,086	2,112	17,590	1,593	1,174	1,213	3,285	29,052
対2015年比	91.3%	105.1%	108.9%	86.5%	68.5%	91.4%	181.3%	107.0%

*1 2015年国勢調査(100mメッシュ)
*2 国立社会保障・人口問題研究所による推計(100mメッシュ)

(4) 観光的特色

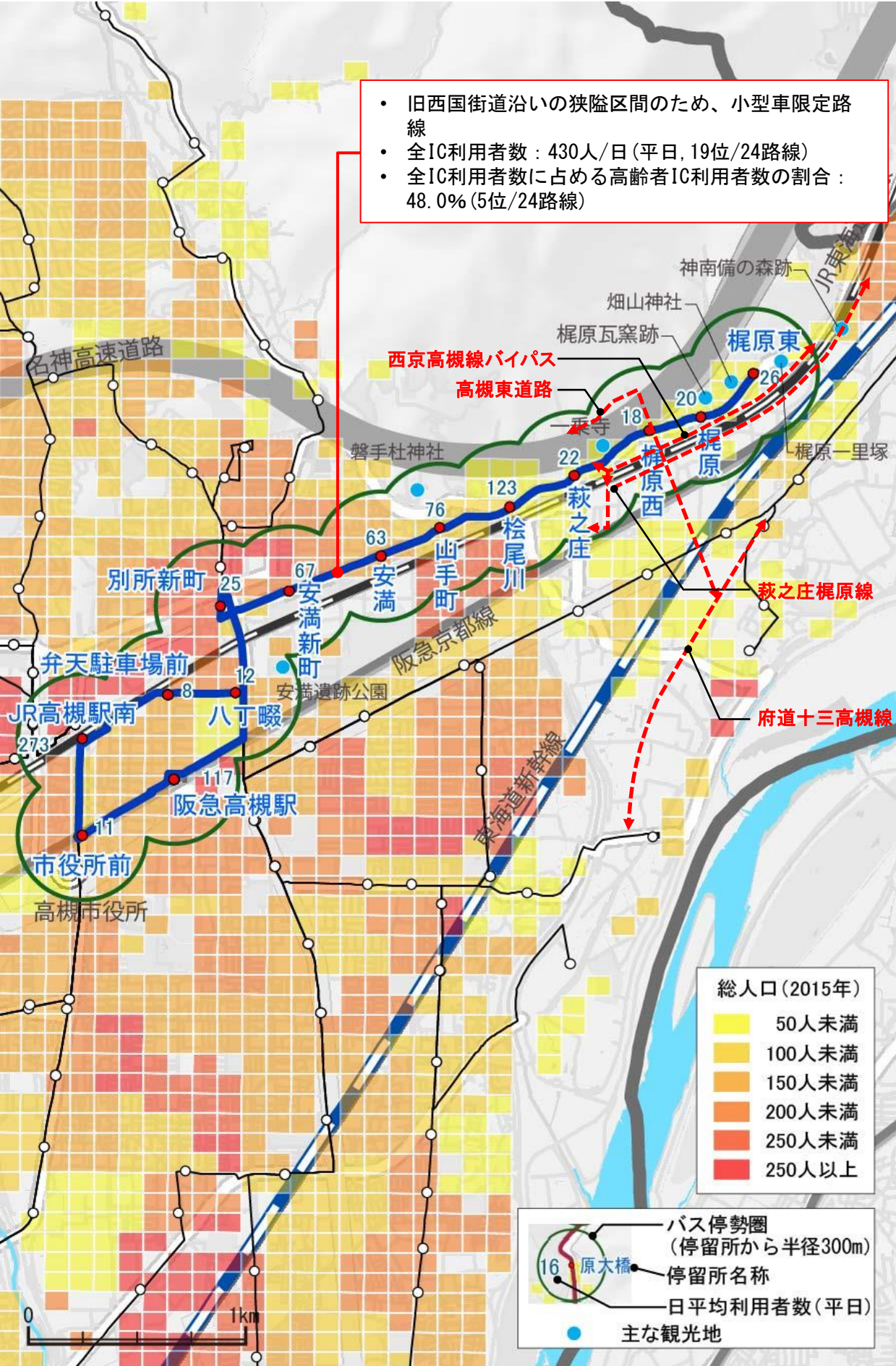
- 【主な観光資源】
- 鶴殿のヨシ原
 - 本澄寺(三好達治記念館)

(5) ODデータに基づく利用状況

- 路線全体のICカード利用者数は2,874人/日(8位/24路線)と比較的多い。JR高槻駅南、阪急高槻駅、野田の乗降客数が500人/日を超えており、特に梶原南バス停以西を中心に100人/日以上乗降がある。
- 路線全体のICカード利用者数の約84%がJR高槻駅南～道鶴町の利用となっており、上牧・淀の原地区の利用は少ない。
- 野田⇔駅間のODが上位となっている(他路線ODを含む)
野田→阪急高槻駅 227人/日
JR高槻駅南→野田 176人/日
野田→JR高槻駅南 200人/日
阪急高槻駅→野田 164人/日

今後の見直しの方向性(案)





(1)路線概要

- JR高槻駅南・阪急高槻駅から西国街道を通過って、梶原地区を結ぶ路線
- 【平成30年度の収支】
- 約3,778万円の赤字(19位/24路線)
- 【その他】
- 生活交通路線維持事業の対象路線
 - 旧西国街道沿いの狭隘区間であるため、小型車(マイクロバス)限定路線となっている

(2)人口分布・まちの沿革・施設立地等

- 沿線は旧西国街道沿いには戸建ての住宅地が立地しているが、高齢化が進んでいる
- 公的施設や商業施設の立地はほとんどない
- 新名神高速道路の建設に関連して、J R 東海道線沿いに新たな道路が整備されている

(3)沿線人口(各バス停から半径300m以内の人口, 単位: 人)

	0-9歳	10-19歳	20-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	総数
2015年 *1	1,878	1,555	13,680	1,520	1,262	923	1,247	22,065
2030年 *2	1,785	1,898	14,949	1,257	999	1,010	2,781	24,680
対2015年比	95.1%	122.1%	109.3%	82.7%	79.2%	109.5%	223.0%	111.9%

*1 2015年国勢調査(100mメッシュ)
*2 国立社会保障・人口問題研究所による推計(100mメッシュ)

(4)観光的な特色

- 路線そのものが旧西国街道であり、比較的観光資源が多い
- 【主な観光資源】
- 安満遺跡公園
 - 磐手杜神社
 - 梶原瓦窯跡
 - 畑山神社
 - 一乗寺
 - 梶原一里塚
 - 神南備の森跡

(5)ODデータに基づく利用状況

- 路線全体のICカード利用者数は430人/日(19位/24路線)で、100人/日を超える乗降客があるバス停はJR高槻駅南、阪急高槻駅、梶尾川のみ。50人未満のバス停が多く、同路線では上位50以内のODはない
- 全ICカード利用者数に占める高齢者ICカード利用者数の割合が高い(48.0%, 5位/24路線)

今後の見直しの方向性(案)



番号	路線名	管轄 営業所	路線概要				今後の見直しの方向性 （案）
			(1) 路線概要	(2) 人口分布・まちの沿革 ・施設立地等	(3) 観光的な特色	(4) ＯＤデータに基づく利用状況	
1	田能・杉生・ 中畑・二料線 (通称) 榎田線	緑が丘	・ＪＲ高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線を通して、榎田地区の4地域を結ぶ路線 ・平日、駅から榎田方面に行く便が9便、駅方面に行く便が10便 ・ＪＲ高槻駅北から原大橋までは均一制運賃、原大橋を越えると対キロ区間制運賃区域 ・生活交通路線維持事業の対象(山間3路線) 【平成30年度の収支】 ・約7,591万円の赤字(24位/24路線) 【その他】 ・原上の口線など、他路線との重複区間が多い	・上の口から北側は市街化調整区域のため、居住人口が少ない ・原大橋から北側は更に居住人口が少なくなる ・上の口までの沿線周辺には商業施設や総合病院が立地している ・市の行政機関である榎田支所は榎田校前が最寄バス停となる ・榎田校前が最寄バス停となる榎田小学校は、他の校区から通学が可能な特認校に指定されている	・以前は「しょうぶ園」「二料山荘」「高槻フラワーパーク」などが沿線に立地していたが、現在は廃業・休業等の状況にある ・沿線には寺社仏閣が点在している 【主な観光資源】 ・高槻森林観光センター ・素盞鳴（すさのお）神社 ・ボンボン山 ・榎船神社 ※原大橋以南は「原・上の口線」の項を参照	・平日、全ＩＣカード利用者数の約70％が上の口まで、約80％が原大橋まで、約97％が榎田校前までの利用となっている ・平日、高齢者ＩＣカード利用者数の約79％が上の口まで、約86％が原大橋まで、約96％が榎田校前までの利用となっている ・途中バス停では、1ヶ月の平均利用者数がゼロの停留所がある	(審議会での議論等を踏まえて作成)
2	萩谷線	緑が丘	・ＪＲ摂津富田駅北側ターミナル(一部、ＪＲ高槻駅北発着の便あり)から府道萩谷西五百住線を通して、萩谷地区を結ぶ路線 ・平日、駅から萩谷方面に行く便が14便（うち7便が高槻発）、駅方面に行く便が14便(うち4便が高槻行) ・ＪＲ高槻駅北から奈佐原までは均一制運賃、奈佐原を越えると対キロ区間制運賃区域 ・生活交通路線維持事業の対象(山間3路線) 【平成30年度の収支】 ・約7,261万円の赤字(21位/24路線) 【その他】 ・奈佐原線など、他路線との重複区間が多い ・関西大学の北側の萩谷総合公園では、イベント開催時等に臨時増発を行うほどの利用がある	・奈佐原地区から北側は市街化調整区域のため、居住人口が少ない ・関西大学の高槻キャンパス(総合情報学部、たかつきアイスアリーナ)が立地している	・萩谷総合公園内の「休養・遊戯施設ゾーン」、「自然系ゾーン」には家族連れなどの市民が訪れている 【主な観光資源】 ・萩谷総合公園 ・たかつきアイスアリーナ ・摂津峡青少年キャンプ場 ・東海自然歩道	・平日、全ＩＣカード利用者数の約97％が関西大学までの利用となっている ・そのうち、ＪＲ富田駅⇄関西大学間の利用者が約83％を占めており、ＪＲ高槻駅～ＪＲ富田駅の利用者は約9％となっている ・平日、高齢者ＩＣカード利用者数の約93％が関西大学までの利用となっている ・そのうち、ＪＲ富田駅⇄関西大学間の利用者が約56％を占めており、ＪＲ高槻駅～ＪＲ富田駅の利用者は約23％となっている	(審議会での議論等を踏まえて作成)

番号	路線名	管轄 営業所	路線概要				今後の見直しの方向性 (案)
			(1) 路線概要	(2) 人口分布・まちの沿革 ・施設立地等	(3) 観光的な特色	(4) ＯＤデータに基づく利用状況	
3	成合・川久保線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから府道伏見柳谷高槻線線を通して、成合・川久保地区を結ぶ路線 ・平日、川久保発着の便が往復各8便(計16便) ・ＪＲ高槻駅北から上成合まで均一制運賃、上成合を越えると対キロ区間制運賃区域 ・生活交通路線維持事業の対象(山間3路線) 【平成30年度の収支】 ・約3,321万円の赤字(18位/24路線) 【その他】 ・沿線の弥生が丘町住民からは、路線延伸(現行路線から分岐)の要望がある	・名神高速道路から北側は市街化調整区域のため、居住人口が少ない ・新名神高速道路高槻ＩＣ周辺のまちづくり(土地区画整理事業)が進められている ・市立葬祭センター及び公園墓地が立地している	・沿線には寺社仏閣が点在している 【主な観光資源】 ・高槻フィールドアスレチック ・成合春日神社 ・安満宮山古墳 ・磐手杜神社 ・安満遺跡公園	・平日、全ＩＣカード利用者数の約99％が上成合までの利用となっている ・平日、高齢者ＩＣカード利用者数の約99％が上成合までの利用となっている	(審議会での議論等を踏まえて作成)
4	日吉台線	緑が丘	・ＪＲ高槻駅北側ターミナルから市道芥川原線を通して、日吉台地区を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約7,820万円の黒字(2位/24路線) 【その他】 ・他路線との重複区間はほぼない	・沿線はほぼ住宅地で、高度成長期までに開発された地区が多い ・今後は、人口減少が顕著となり高齢化が進むことが見込まれる ・市道芥川原線は4車線に拡幅する都市計画があるが、整備時期は未定 ・公的施設の立地はほぼない ・旧国家公務員宿舎跡地など近年再開発された地区では、新たな転入者も見込まれる	・沿線には寺社仏閣が点在している 【主な観光資源】 ・霊松寺 ・伊勢寺 ・上宮天満宮	・ＪＲ高槻駅北⇄中央公園、日吉台口のＯＤが多くなっており、奥天神より北側の利用者が全ＩＣ利用者の約80％を占めている ・高齢者ＩＣカードについても同様の傾向で、奥天神より北側の利用者が約73％を占めている	基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する
5	芝谷線	緑が丘	・ＪＲ高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線、市道南平台日吉台線を通して、芝谷・寺谷地区を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約3,069万円の黒字(4位/24路線) 【その他】 ・原上の口線など、他路線との重複区間が多い ・寺谷町バス停(終点)の北側に位置する高見台地区からは、路線延伸の要望がある	・服部図書館前～芝谷町間は、丘陵地に広がる戸建て住宅が立地している ・聖ヶ丘地区など昭和後期に開発された区域が多いため、高齢化が進行しつつある ・服部図書館、日吉台公民館などが立地している	・沿線には古墳群等が点在している 【主な観光資源】 ・安岡寺 ・服部図書館 ・安満・芝谷古墳群	・ＪＲ高槻駅北から寺谷町間のＯＤが上位30位までに入っている ・安岡寺東や芝谷東のＯＤも上位に入っている	基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する

番号	路線名	管轄 営業所	路線概要				今後の見直しの方向性 （案）
			(1) 路線概要	(2) 人口分布・まちの沿革 ・施設立地等	(3) 観光的特色	(4) ＯＤデータに基づく利用状況	
6	美しが丘線	芝生	・ＪＲ高槻駅南・阪急高槻駅から市道別所日吉台線を通して、日吉台地区を結ぶ路線 ・支線として、別所本町公園北を発着する循環系統がある 【平成30年度の収支】 ・約2,294万円の赤字 （14位/24路線） 【その他】 ・美しが丘地区の住宅開発により、市道別所日吉台線の供用に合わせて運行を開始している ・道路の制約により中型車で運行している	・かつては、京大温室や民間企業の療養所などが立地していた地域で、道路勾配が大きい ・美しが丘地区は市内全体と比較して年齢層が若く、新たにマンションも建設されている ・古曽部防災公園が立地している	・沿線には古墳群等が点在している 【主な観光資源】 ・安満遺跡公園 ・伝能因法師墳 ・古曽部防災公園 ・安満・芝谷古墳群	同路線では上位50以内のＯＤはない	基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する
7	原・上の口線	緑が丘	・ＪＲ高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線を通して、原地区を結ぶ路線 ・市営バスの全路線中、最も便数が多い 【平成30年度の収支】 ・約3,347万円の黒字 （3位/24路線） 【その他】 ・田能線、芝谷線など、他路線との重複区間が多い ・安岡寺住宅～松が丘バス停近辺の街区で、新たなバス停設置の要望がある	・上の口から北側は市街化調整区域のため、居住人口が少ない ・名神高速道路かた北側は急峻な地形で、戸建て住宅が立地している ・上の口までの沿線周辺には商業施設や総合病院が立地している	・ポンポン山や神峯山寺など、比較的観光資源が多い路線である 【主な観光資源】 ・神峯山寺 ・本山寺 ・ポンポン山 ・八阪神社 ・摂津峡（白滝） ・三好山（芥川山城跡） ・安岡寺 ・神服神社	・松が丘、安岡寺住宅、上の口など、多数のバス停がＯＤの上位となっている ・これらのバス停からは、ＪＲ高槻駅北または、芥川商店街までの利用が多いが、松が丘⇄安岡寺住宅など、隣接するバス停相互間での利用もある	・生活路線としては、基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する ・また、観光路線としての可能性を検討する
8	塚脇・下の口線	緑が丘	・ＪＲ高槻駅北側ターミナルから府道枚方亀岡線、市道下の口宮之川原線を通して、塚脇、大蔵司地区を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約451万円の赤字 （6位/24路線） 【その他】 ・原上の口線など、他路線との重複区間が多い	・観光旅館や日帰り入浴可能な温浴施設が立地している ・伏原から西側は市街化調整区域のため、居住人口が少ない ・宮之川原から大蔵司までは、住宅と商業施設が混在して立地している	・本市の代表的観光地の一つである摂津峡公園へのアクセス路線である 【主な観光資源】 ・摂津峡公園（桜広場） ・三好山（芥川山城跡） ・安岡寺 ・神服神社	同路線では上位50以内のＯＤはない	・生活路線としては、基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する ・また、観光路線としての可能性を検討する

番号	路線名	管轄 営業所	路線概要				今後の見直しの方向性 （案）
			(1) 路線概要	(2) 人口分布・まちの沿革 ・施設立地等	(3) 観光的な特色	(4) 〇Ｄデータに基づく利用状況	
9	南平台東線	緑が丘	・ＪＲ高槻駅北側ターミナルから国道171号、市道辻子下の口線を通って、関西大学を結ぶ路線 ・ＪＲ高槻駅北から平安女学院大学までは均一制運賃、平安女学院大学を越えると対キロ区間制運賃区域 【平成30年度の収支】 ・約1,337万円の赤字（10位/24路線） 【その他】 ・阿武山塚原線など、他路線との重複区間が多い ・大学授業日とそれ以外での需要の差が大きいため、学休ダイヤの設定がある	・沿線は閑静な住宅地であるが、高齢化が進んでいる ・平安女学院大学高槻キャンパス及び、関西大学高槻キャンパスが立地している ・芥川緑地には、高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）が立地している	・寺社仏閣や芥川沿いの施設等、比較的観光資源が多い路線である 【主な観光資源】 ・芥川桜堤公園 ・阿久刀神社 ・素盞鳴尊神社（芥川廃寺） ・清福寺太子堂 ・嶋上郡衙跡 ・高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川） ・芥川緑地 ・摂津峡青少年キャンプ場 ・摂津峡公園（桜広場）	・平日のＪＲ高槻駅北⇔関西大学間の〇Ｄが上位となっている	関西大学と駅間の〇Ｄが多く、通学路線としての需要を踏まえながら、観光路線としての可能性を検討する
10	国道線	緑が丘	・ＪＲ高槻駅北側ターミナルから国道171号を通して、ＪＲ摂津富田駅を結ぶ路線 ・国道を直進する経路のほか、郡家・今城塚古墳前を経由する経路がある ・平日、高槻から富田方面に行く便が４便（うち今城塚古墳前経由が２便）、高槻方面に行く便が６便（うち今城塚古墳前経由が２便） 【平成30年度の収支】 ・約369万円の赤字（5位/24路線） 【その他】 ・全線にわたり他の路線と重複しているため、国道線単独での運行は数便に限られる ・ＪＲ高槻～摂津富田間については、所要時間、運賃ともにＪＲ線の方が優位となっている	・国道171号の沿線にはサンスター、明治、パナソニック等の大規模工場が立地している ・住宅は主に国道の北側に立地し、西国街道沿いには旧来の町家的な住宅が点在している	・寺社仏閣や古墳等、比較的観光資源が多い路線である 【主な観光資源】 ・今城塚古墳 ・今城塚古代歴史館 ・芥川桜堤公園 ・阿久刀神社 ・素盞鳴尊神社（芥川廃寺） ・清福寺太子堂 ・嶋上郡衙跡 ・明治なるほどファクトリー大阪	・ＪＲ高槻駅北～ＪＲ富田駅の〇Ｄが土曜日と日曜日・祝日ダイヤで上位50位以内となっているが、往復ともに6割強が高齢者ＩＣカードとなっている ・ＪＲ高槻駅北～川西の〇Ｄも上位となっている	・生活路線としては、基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴う〇Ｄの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する ・また、観光路線としての可能性を検討する
11	奈佐原線	緑が丘	・ＪＲ摂津富田駅北側ターミナル（一部ＪＲ高槻駅北発着の便あり）から、府道萩谷西五百住線を通して、南平台・奈佐原地区を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約461万円の赤字（7位/24路線） 【その他】 ・阿武山塚原線など、他路線との重複区間が多い ・経路は一方の循環となっており、一部狭隘区間もある	・南平台地区は閑静な住宅地であるが、開発時期が昭和の中期から後期であり、高齢化が進んでいる ・丘陵地であり、坂道が多い ・沿線には古墳が点在し、市立埋蔵物文化財調査センターも立地している ・郡家老人福祉センターや市立療育園など、福祉施設も多く立地している	・寺社仏閣や古墳等、比較的観光資源が多い路線である 【主な観光資源】 ・今城塚古墳 ・今城塚古代歴史館 ・埋蔵文化財調査センター ・阿久刀神社 ・素盞鳴尊神社（芥川廃寺） ・清福寺太子堂 ・嶋上郡衙跡 ・明治なるほどファクトリー大阪	同路線では上位50以内の〇Ｄはない	・生活路線としては、基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴う〇Ｄの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する ・また、観光路線としての可能性を検討する

番号	路線名	管轄 営業所	路線概要				今後の見直しの方向性 （案）
			(1) 路線概要	(2) 人口分布・まちの沿革 ・施設立地等	(3) 観光的特色	(4) ＯＤデータに基づく利用状況	
12	阿武山・塚原線	緑が丘	・ＪＲ摂津富田駅北側ターミナル（一部ＪＲ高槻駅北発着の便あり）から、ＵＲ阿武山団地、日赤病院、塚原方面を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約10,248万円の黒字（1位/24路線） 【その他】 ・奈佐原線など、他路線との重複区間が多い ・沿線の宗教団体輸送があり、祭事開催時には臨時便を増発している	・ＵＲ阿武山団地は、街開きから30年以上を経過し、今後急速に高齢化が進むことが予測される ・沿線に大阪薬科大学が立地しており、直行便も含め通学輸送が多い ・高槻赤十字病院や京大地震研究所が立地している	・藤原鎌足の墓と伝えられる阿武山古墳をはじめ、古代史にゆかりのある史跡が多く、比較的観光資源が多い路線である 【主な観光資源】 ・ハニワ工場公園 ・闘鶏野神社 ・闘鶏山古墳 ・阿武山古墳 ・京都大学阿武山観測所 ・上の池公園	・ＪＲ富田駅⇄大阪薬科大学、上土室、日赤病院南のＯＤが多い ・全ＩＣ利用者の約80％がＪＲ富田駅～公団阿武山／西塚原間の利用者となっている ・ＪＲ高槻駅北⇄ＪＲ富田駅間（国道線と重複）のＯＤは、全ＩＣ利用者の約10～17％となっている	・ベッドタウン輸送と学生輸送、祭事輸送がミックスしており、営業成績も良好であり、基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する ・また、観光路線としての可能性を検討する
13	昭和台線	芝生	※平成31年3月末で路線休止※				
14	富田南線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから阪急高槻市駅を経て、府道高槻茨木線を通して、阪急富田駅を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約2,063万円の赤字（11位/24路線） 【その他】 ・栄町線や芝生住宅線など、他路線との重複区間が多い ・如是校前バス停以西等で狭隘区間があり、中型車での運行となっている	・阪急富田駅付近は戦前に鉄道会社が開発した住宅地で、府道沿いは住居と事業所が混在して立地している ・沿線全般的に住民の年齢層は高いが、一部では新たなマンション建設なども行われている ・路線全般にわたって地勢が平坦で、自転車利用者が多い	【主な観光資源】 ・筑紫津神社 ・津之江公園	同路線では上位50以内のＯＤはない	生活路線として、基本的に現行ダイヤを維持していくが、重複する他の路線と合わせて総合的に検討する
15	芝生住宅線	芝生	・阪急富田駅から府道高槻茨木線を通して、芝生住宅を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約2,269万円の赤字（13位/24路線） 【その他】 ・栄町線、富田南線など、他路線との重複区間が多い ・如是校前バス停以西等で狭隘区間があり、中型車での運行となっている	・芝生住宅は昭和の末期に建て替えが行われている ・路線全般にわたって地勢が平坦で、自転車利用者が多い ・三中前バス停付近では、芥川堤防に近いエリアが再開発され、戸建ての建売住宅が立地している	【主な観光資源】 ・津之江公園 ・高槻市立総合スポーツセンター	同路線では上位50以内のＯＤはない	（審議会での議論等を踏まえて作成）

番号	路線名	管轄 営業所	路線概要				今後の見直しの方向性 (案)
			(1) 路線概要	(2) 人口分布・まちの沿革 ・施設立地等	(3) 観光的な特色	(4) ＯＤデータに基づく利用状況	
16	栄町線	芝生	・駅から府道高槻茨木線を通して、栄町方面を結ぶ路線 ・阪急富田駅発着の系統とＪＲ高槻駅南発着の系統がある 【平成30年度の収支】 ・約2,200万円の赤字 (12位/24路線) 【その他】 ・芝生住宅線、富田南線など、他路線との重複区間が多い ・阪急富田駅を発着する系統については、富田芝生線の運行開始に伴い、芝生住宅線とともに調整を行い、現在は最低限の便数となっている ・高槻方面は朝ラッシュ時の運行便がなく、昼間帯の運行のみとなっている	・路線全般にわたって地勢が平坦で、自転車利用者が多い ・栄町付近は商店と住宅が混在して立地している	【主な観光資源】 ・高槻市立総合スポーツセンター	同路線では上位50以内のＯＤはない	生活路線として、基本的に現行ダイヤを維持していくが、重複する他の路線と合わせて総合的に検討する
17	富田団地線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから阪急高槻市駅を経て、府道大阪高槻線を通して、富田団地を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約3,076万円の赤字 (17位/24路線) 【その他】 ・柱本・三島江線など、他路線との重複区間が多い	・府道大阪高槻線の沿線は、産業道路的な性格があるため住工混在の状況である ・大規模な工場の撤退した跡地は大型物流施設となるケースがあり、ベッドタウンと逆向きの流動(朝ラッシュ時の駅→団地向き)も見られる ・沿線は高齢化しているが、富田団地では子育て世代の入居も見られる ・総合スポーツセンターや市民プール、芝生図書館が立地しており、イベントや大会開催時には利用者が多い	【主な観光資源】 ・特になし	ＪＲ高槻駅南⇄富田団地中央・富田団地間のＯＤは、上位50位以内となっている	生活路線として、基本的に現行ダイヤを維持していくが、重複する他の路線と合わせて総合的に検討する
18	玉川橋線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから阪急高槻市駅を経て、国道170号、府道枚方茨木線を通して、玉川橋団地を結ぶ路線 ・平日、駅から玉川橋団地方面に行く便が７便、駅方面に行く便が５便 【平成30年度の収支】 ・約1,124万円の赤字 (9位/24路線) 【その他】 ・下田部線などと重複している区間がある ・路線全般的に京阪バスの枚方高槻線や枚方茨木線と競合関係にある ・市営バスの空白地帯となっていた竹の内小学校区住民からの要望に応じる形で、平成29年に現行の経路に変更した	・国道170号の沿線はスーパーや飲食店などの立地が多く、住宅も多い ・工場が撤退した跡地は住宅に変わることが多く、沿線の小学校でも入学者が増加している ・昭和中期頃に開発された街区も多いため、高齢化が進行している	【主な観光資源】 ・高槻スカイランド ・番田温水プール（バンプー） ・段倉（唐崎地区） ・玉川の里	同路線では上位50以内のＯＤはない	生活路線として、基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する

番号	路線名	管轄 営業所	路線概要				今後の見直しの方向性 （案）
			(1) 路線概要	(2) 人口分布・まちの沿革 ・施設立地等	(3) 観光的な特色	(4) ＯＤデータに基づく利用状況	
19	柱本・三島江線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから府道大阪高槻線線を通して、柱本・三島江地区を結ぶ路線 ・一部は復路三島江経由で運行している 【平成30年度の収支】 ・約7,570万円の赤字 (22位/24路線) 【その他】 ・富田団地線など、他路線との重複区間が多い ・生活交通路線維持事業の対象路線 ・路線の距離が長く所要時間も要し、遅延も発生しやすい	・府道大阪高槻線の沿線は、産業道路的な性格があるため住工混在の状況である ・大規模な工場の撤退した跡地は大型物流施設となるケースがあり、ベッドタウンと逆向きの流動(朝ラッシュ時の駅→団地向き)も見られる ・車庫前以南は柱本団地を除いて、事業所や農地が立地している	【主な観光資源】 ・三島江浜跡（妙見宮常夜灯） ・三島鴨神社 ・レンゲ・コスモス畑 ・くらわんか舟発祥地之碑 ・興楽寺 ・淀川河川公園三島江地区	・高齢者ＩＣカードで、ＪＲ高槻南⇨柱本団地間のＯＤが上位となっている	（審議会での議論等を踏まえて作成）
20	下田部線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから国道170号を通して、下田部団地を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約2,681万円の赤字 (15位/24路線) 【その他】 ・玉川橋線など、他路線との重複区間が多い ・駅から辻子までは京阪バスとの競合区間となっている	・府公社の下田部団地及び、府営下田部住宅が沿線に立地している ・保健所や大規模スーパーなどの商業施設も多数立地している	【主な観光資源】 ・ウォータープラザ（大冠浄水場） ・高槻スカイランド ・芝生大橋	ＪＲ高槻駅⇨下田部団地間のＯＤが上位となっている	基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する
21	大塚線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから国道170号を通して、深沢住宅方面を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約782万円の赤字 (8位/24路線) 【その他】 ・下田部線など、他路線との重複区間が多い ・京阪バス枚方高槻線との並行区間が多い	・国道区間以外の沿線は、基本的に住宅地で、一部、商店や農地も立地している ・公的施設の立地は少ない	【主な観光資源】 ・淀川河川公園大塚地区	・北大塚⇨駅間のＯＤが上位となっている ・高齢者ＩＣカードのＯＤでは、東和町や深沢住宅南口なども上位となっている	基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する
22	前島・六中線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから国道171号を通して、野田方面を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約2,719万円の赤字 (16位/24路線) 【その他】 ・大塚線や道鶴線と重複している区間がある ・東天川バス停周辺の道路状況により、小型車（マイクロバス）限定路線となっている	・六中前までは住宅や商業施設などの立地が多い ・六中前から前島間は農地が多い ・野田バス停近傍に総合病院が立地している ・府道十三高槻線や高槻東道路の整備に伴い、交通需要に変動が見られまた、周辺のまちづくりが検討されている	【主な観光資源】 ・クリンピア前島（温水プール）	・野田⇨駅間のＯＤが上位となっている	（審議会での議論等を踏まえて作成）

番号	路線名	管轄 営業所	路線概要				今後の見直しの方向性 （案）
			(1) 路線概要	(2) 人口分布・まちの沿革 ・施設立地等	(3) 観光的特色	(4) ＯＤデータに基づく利用状況	
23	道鶴線	芝生	・ＪＲ高槻駅南側ターミナルから国道171号を通過、道鶴町・上牧方面を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約4,831万円の赤字（20位/24路線） 【その他】 ・大塚線や前島・六中線と重複している区間がある ・生活交通路線維持事業の対象路線 ・淀の原地区は路線環境の関係で、中型車限定での運行となっている	・檜尾川より西側の国道区間は、総合病院やマンション・商業施設等が立地している ・檜尾川より東側の区間は、大型の商業施設や工場等も立地するものの、住宅は少ない ・府道十三高槻線や高槻東道路の整備に伴い、交通需要に変動が見られる	【主な観光資源】 ・鶴殿のヨシ原 ・本澄寺（三好達治記念館）	・野田⇄駅間のＯＤが上位となっている	（審議会での議論等を踏まえて作成）
24	梶原線	芝生	・ＪＲ高槻駅南・阪急高槻駅から西国街道を通過、梶原地区を結ぶ路線 【平成30年度の収支】 ・約3,778万円の赤字（19位/24路線） 【その他】 ・生活交通路線維持事業の対象路線 ・旧西国街道沿いの狭隘区間であるため、小型車(マイクロバス)限定路線となっている	・沿線は旧西国街道沿いには戸建ての住宅地が立地しているが、高齢化が進んでいる ・公的施設や商業施設の立地はほとんどない ・新名神高速道路の建設に関連して、ＪＲ東海道線沿いに新たな道路が整備されている	・路線そのものが旧西国街道であり、比較的観光資源が多い 【主な観光資源】 ・安満遺跡公園 ・磐手杜神社 ・梶原瓦窯跡 ・畑山神社 ・一乗寺 ・梶原一里塚 ・神南備の森跡	同路線では上位50以内のＯＤはない	（審議会での議論等を踏まえて作成）
25	富田芝生線	芝生	・平成31年4月より新たに運行を開始した路線 ・阪急富田駅から市道富田芝生線を通して、栄町・車庫前・富田団地を循環する路線 【平成30年度の収支】 ・データなし 【その他】 ・富田団地線など、他の路線との重複間が多い ・茨木市との境界に近い住宅地と総合スポーツセンター、富田支所等の行政機関を結んでいる	戸建て住宅の立地する栄町、寿町、川添地区では高齢化が進行している	・富田の旧市街地を運行しており、観光資源が多い 【主な観光資源】 ・市立総合スポーツセンター ・市民プール ・慶瑞寺 ・教行寺 ・三輪神社 ・普門寺 ・本澄寺 ・清鶴酒造 ・壽酒造	データなし	・開業間もない路線であるが、基本的に現行ダイヤを維持していく路線であるが、今後の少子高齢化に伴うＯＤの変化等を踏まえて、需要の変化に応じたダイヤを検討する ・また、観光路線としての可能性を検討する
※平成３０年度収支の２４路線には昭和台線が含まれている（富田芝生線は含まない）							